

【小学校・中学校・義務教育学校用】
令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	佐賀市立勤興小学校
-----	-----------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・「目方に向いむら、子ひねける光景」を再演することを目標に、校内研を通して教職員が学び続けたこと、つらいた力を明確にした授業づくりを進めることができた。来年度は調査では、「思考力・判断力・表現力」の向上が定着した。その一方で、主体的な学力向上は今後も大きな課題である。 ・多様な人物や価値観との出逢いを通して、多様性を受け入れ他者ともに大切に考えられる教育を展開することができた。 ・「勤興皆一家」を掲げる地域に支えられた環境の中で、自分らしさを誇り、自立へ向かう子どもの支援を充実させることができた。 ・業務改善、教職員の働き方改革については、改善はみられるものの、今なお課題が残る。職員自らの改善策を募り、ボトムアップで業務改善を進めるなど、今まで以上の工夫が必要である。
------------------	---

2 学校教育目標	ふるさと勤興を誇りに 個性と創造性に富む子どもの育成 ～勤興魂「勉強はベストをつくし 運動はくたくたになるまで」を校是として～
----------	--

3 本年度の重点目標	【市民性と自己有用性を育む教育の推進】：〇ふるさと勤興を誇りに、市民性を育む教育の充実、〇創立150年を機に、自ら進んで役割を果たそうとする児童の育成 【学力向上の推進】：〇学習指導要領の理念を具現化し、学力向上を目指した学習指導、〇個に応じた価値ある家庭学習の継続 【豊かな心の育成】：〇開発的な生徒指導や個々に寄り添った教育相談の推進、〇多様性を当たり前に受容できる児童や学校文化の育成 【特別支援教育の充実】：〇個別的教育支援計画を具現化した適正な教育課程の編成及び実施、〇全児童を対象とした合理的配慮の提供
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目							
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	〇学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	〇単元で身に付ける力や学び方を明確にし、児童と共有する授業実践(授業公開年1回以上)	〇国語・算数・社会・理科・自立活動において単元で身に付ける力や学び方を明確にした授業の公開を年1回以上行う。 〇公開授業後の研究会実施(100%) 〇全校授業研究会参加5回	A	・単元で身に付ける力や学び方を明確にした授業の公開を1回以上行うことができた。 ・公開授業後の研究会を100%実施できている。 ・全校授業研を5回行った。	A	・授業研究会等の具体的取組の予定回数をクリアし、学校全体で取り組まれていることが分かった。
	〇一人一台のタブレットを有効活用した授業実践	〇「各学年で身につける操作スキル」当該学年の技能習得の指導 100% 〇プログラミング教育全体計画の当該学年の指導内容の履修 100%	〇総合的な学習の時間等で技能習得の時間を設ける。 〇ICT利活用推進のための教職員向けミニ研修の実施(年10回) 〇4年生以上で家庭でのタブレット活用を推進する 〇ゲストティーチャー等を引き、多様な人物や価値観との出会いを教育課程に位置づけ、価値ある学びを作る。 〇特別支援学級の担任による児童への多様性を認め合い尊重し合うことをねらいとした講話の実施。	A	・ICT利活用推進のための教職員向け全体研修を2回、ミニ研修を18回行った。 ・各教科の授業単元におけるまよめ・調べ学習の時間などに積極的にICT利用を4年生以上で家庭でのタブレット利用を呼び掛けたり、家庭でできる課題を出している。	A	・日々の授業で、学習端末を積極的に活用されていることが分かった。操作がスムーズであることは、日々に積み重ねてであると思う。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	〇多様な人物や価値観との出会いから、自分事としての振り返りができる児童85%以上	〇確実に丁寧なアンケートの対応 →アンケート実施月内に、聞き取り、解決に導く	B	・中間評価に同じく、児童、保護者へのアンケートの実施は毎月確実に行うことができた。対応も内容に応じて管理職と協力して、解決に向けて対応することができている。	A	・毎月のアンケート実施で聞き取りで解決に導く努力があったのは素晴らしい。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	〇校内研修を通して、QUアンケートの集計結果を基に学級のアセスメントを行う。 〇学校評価アンケートに質問項目を入れて集計をする。 〇教科横断的な視点でキャリア教育を推進する。 〇学期ごとのめあてや振り返りで児童のできるようになったことやこれから頑張りたいことについての項目を設け、自己肯定感を高める	A	・QUアンケートから学年・学級ごとの課題を見出し、改善に向けて学校全体で取り組んだ。 ・キャリアパスポートを作成し、学期ごとのめあてと振り返りをフィリングすることで、児童の達成感や自己肯定感を高める機会をつくった。 ・十年後の自分への手紙を書くことで、将来の夢や目標を言語化した。 ・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童は90%を超えている。「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童は80%を超えている。	A	・アンケートの内容に応じ、児童への配慮をされている。 ・自分の夢と希望を持つ児童をこれからも育てもらいたい。 ・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」という目標80%に対し、回答した児童は90%を超えているのは素晴らしい。
	◎ふるさと勤興を誇りに、自分の夢や目標について考える教育の推進	◎「勤興の良さ」を1つ以上回答できる1～3年生が80%以上 ◎「勤興を誇りに思う」と回答する4～6年生が80%以上	〇児童が地域に学ぶ場、児童の地域における活躍の場、「出番・役割・承認」の場を各学期に1回以上、教育課程に位置づける。 ◎「勤興読本」「さがの人物探検99」の活用	A	・5年生「ふるさと勤興」の地域学習、4年生の「かんこうこともランタン」の学習や勤興まつりなど学年に応じた取り組みを行い、地域の方々と交流する機会を通して、地域のことを学んでいる。 ・学校全体で「勤興読本」の時間を設け、地域の良さや佐賀の偉人について理解を深めている。 ・「勤興の良さを答えることができる」と回答する児童は80%を超えている。	A	・地元の明治の偉人の名前や業績をよく知っている児童も多く、ふるさと教育が実践されていることが伺えた。 ・今後も地域の方々と交流は必要だと思えます。また高齢者との交流も継続してもらいたい。
	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で体を動かす時間が1週間で420分以上の児童生徒90%以上	〇昼休みに体育館を開放し、運動する機会を増やす。 〇徒歩通学の価値づけおよび奨励 ・全校朝会で啓発 ・学校だより、保健だより、学級だよりで発信(それぞれ1回以上)	A	・1週間で420分以上の運動目標から単純計算で1日あたり80分程度の運動やスポーツを行うように働きかけてきた。約70%の児童が概ね達成できている。体育館開放やバスケットコートの設置など体を動かす機会は設けられているので、継続していく。 ・基本的に徒歩通学はできているので、引き続き啓発や通信等で連絡をするようにしていく。	A	・「勉強はベストをつくし、運動はくたくたになるまで」の校是を、今後も継続して取り組んでいただきたい。 ・体育館開放や運動場でのバスケットゴール設置を通して、体を動かす児童がさらに増えればいいなと思います。 ・最近では自家用車送迎が増え、雨の日は渋滞が起こると市内の小学校で聞いたことがあるが、本校は徒歩で登校している児童が多いのはいいことだと思う。
	〇ゲーム・インターネット・SNSの節度ある適切な使用	〇端末を利用する約束を守っていると回答する保護者の割合が85%以上	〇情報モラル等の問題を取り上げた学級指導を教育課程に位置付け実施する。 〇インターネット利用に関するアンケートの毎月実施。 〇学級だより等、保護者に諸問題に関する情報を提供し、啓発する。	B	・情報モラル等の問題を取り上げた学級指導を教育課程に位置付け実施できている。 ・インターネット利用に関するアンケートの毎月実施し、意識を高めているが、「端末を利用する約束を守っている」について肯定的な回答をした保護者の割合は81%だった。 ・情報モラル通信等で、保護者に諸問題に関する情報を提供し、啓発している。	A	・これまでの実施されてきているとは思いますが、ゲーム・インターネットの危険性を、しっかりと児童・保護者にも学ばせていただきたい。 ・ゲームやスマートフォンでのSNS等は家庭教育の責任である。

●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	〇18時以降の電話の禁止 〇健康観察アプリ「LEBER」での連絡対応(休日や長期休業の対応範囲の共通理解) 〇提出期限ボードの活用 〇業務の効率化アイデアの共有 〇職員会議資料のデータ化	A	・電話の時間制限や「LEBER」の活用で、家庭との連絡・情報共有が効率的に行なった。 ・提出期限ボードや会議資料のデータ化で、資料の提出や作成・共有がスムーズにした。 ・学期ごとに振り返りを行い、業務改善に向け行事等の精選をした。	A	・日々の連絡を保護者としてしっかりされていることがありがたい。 ・先生方の負担を減らす方向で業務改善を進めてほしい。
	〇探さない・切らさない・ためない整理整頓	〇各箇所の整理整頓評価をA以上にする。(S・A・B・C・D)の5段階評価	〇安全点検の際に安全の視点とは別に整理整頓の視点で点検を行い、室管理者の声掛けで即時に改善を図る。	B	・委員会を中心に、分別やリサイクルについて理解を深めた。 ・職員作業などで時間を確保したり、日頃から職員間で言葉かけをしたりして、職員室・印刷室等、ものが整った環境づくりを心掛けた。また、安全パトロールや安全点検を機に安全面や効率化の面から整理整頓を呼びかけ、職員の意識向上に努めた。	A	・学校全体で取り組みをされていることが伺えるので、これからも目的意識をもって継続してほしい。 ・業務改善に関して啓発はできていると思われるが、改善がなされているかが分からないと思った。

●特別支援教育の充実	〇個別的教育支援計画、個別の指導計画を具現化した教育課程の実施 〇個に応じた自立活動の充実	〇個別的教育支援計画、個別の指導計画を有効に活用したと回答する職員80% 〇人的環境のUDについて意識して取り組むことができたと回答する職員80%	〇個別的教育支援計画を具現化した教育課程作成のための校内研修開催 〇校内の課題に応じた教職員研修の開催 〇児童の教育的ニーズに応じた学びの場の検討(支援会議の実施) 〇個別の指導計画の効果的活用(毎週木曜日) 〇校内教育支援委員会の計画的開催に向けた特別支援教育Cの役割の明確化	A	・自立活動計画の事例を見ながら、ニーズに応じた教育課程の編成について全職員で研修を行った。 ・安心感、共感、集団的自己肯定感を持てるような学級づくりを目指し、人的環境のUD化についての研修を年度当初に行なった。また、児童の実態把握とその支援に役立てるための研修を、冬休みに行った。 ・支援会議を15回以上行ない、学びの場の検討や、関係機関との共通理解を行った。 ・学校行事での配慮事項の共通理解など、毎週木曜日の時間を活用し指導計画にも反映した。 ・Coで役割分担し、支援委員会を計画的に開催できた。	A	・毎週連絡会で個人ファイルの書き込みをされる時間を確保されていることがいいと思った。更に気になる子についての情報交換や支援会議を行うことで、個に応じたきめ細やかな指導に生かされると思う。
------------	--	--	---	---	--	---	---

5 総合評価・次年度への展望	・職員が学校評価の重点取組を理解し、方向を向いて教育活動に取り組むことができた。 ・校内研を通して、教職員が学習課題を設定し、単元構成を意識した学習指導が定着しつつある。 ・地域に支えられている環境の中で、自立へ向かう子どもの支援を充実させることができた。 ・教職員の働き方改革については、時間外在校時間が短縮され年休取得率の向上が見られた。今後も課題解決に向けて取り組みを継続する必要がある。
----------------	--